

令和6年度三角山小学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：21018

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇子どもの実態把握を細かく実施し、評価規準を子どもの具体的な姿で設定することができた。これにより、子どもが評価規準を達成できるように、教師が一人一人に合った手立てや適切な関わりを行うとともに、子どもの姿を確実に見取るための学習活動を設定することができ、子どもたち自身、伸びを実感できた。</p> <p>◇単元での学びを意識して授業を構成したことによって、子どもたちが一時間ごとの学びを実感し、自己の学びを認識することができた。</p>	<p>◇評価規準を満たすための手立ての不足 →CからBに引き上げるための手立ては意識されていたものの、BからAに引き上げる手立てが少なかった。(学習の個性化)</p> <p>◇ICTや思考ツールへの必要感 →教師の意図で使用する事が多く、子どもたちの必要感が少なかった。今後、子どもたち自身で考え、必要感を生み使用できるようにしたい。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇児童アンケートから、相互承認に関する項目では、他の項目と比較すると3.1ポイントと低い値を示していることから、自己や他者を認める手立てを構築する。また、その手立てについて、学年の発達に応じて系統立てたものを作成し、学校全体で共有していく。授業以外でも、縦割りでの活動を引き続き継続することで、異学年との関わりから自己肯定感や自己有用感、さらには上級生への憧れの気持ちを育み、相互承認の感度を高めていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分で問題を発見し、自らの意思で学び進め、自らの成長や学びの進捗を自覚できるようにする。

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇子どもたちが見通しをもち、主体的に学び合う学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる考えに触れながら、自らの見方・考え方を働かせることで、協働的に学ぶことの価値を見出せるような授業を構築する。 各教師の専門性を生かした研修を充実させ、日常の授業で活用できる指導技術を互いに学び合う機会を増やす。 	<p>◇自分の意思で学んだり、人と学び合ったりする活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが自らの考えをもつ時間を保障し、自らの意思で解決方法を選ぶことができるようにする。 子ども同士が心を開いて対話したり、協力したりできるよう、子どもの声に耳を傾けた学びを構築する。 「やらされる活動」から「やってみたい活動」の充実を目指し、子どもたちが主体となって活動できる機会を保障する。

〈本プログラムの実行に向けて〉

